２０２３年6月２日

各　位

会　社　名　近鉄ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式会社
代表者名　取締役社長　小　倉　敏　秀
コード番号　９０４１
上場取引所　東京（プライム市場）
問合せ先　経営戦略部長　吉　村　有　仁
（ＴＥＬ　０６－６７７５－３４２５）

中期経営計画の目標経営指標の見直しについて

当社は、２０２１年５月１４日に公表した「近鉄グループ中期経営計画２０２４」の目標経営指標について、本日開催の取締役会において下記のとおり見直しをいたしましたのでお知らせいたします。

記

１．目標経営指標の見直しの背景および今後の方向性

（１）見直しの背景

当社は「近鉄グループ中期経営計画２０２４」において、２０２４年度までをコロナ禍からの回復期と位置づけ、基本方針と重点施策に基づき、２０２１～２２年度は、グループ各事業においてコスト構造改革による損益分岐点の引き下げ、保有資産の売却・流動化、近鉄エクスプレスの子会社化など、グループを挙げて事業構造改革及び事業ポートフォリオの変革を進めてまいりました。

コロナ禍が概ね収束した今年度からは、国際物流事業が年度を通じてフルに寄与するほか、アフターコロナのグループ各事業の回復戦略、鉄道事業における運賃改定等により経営基盤の更なる強化を図ってまいります。

今後、２０２４年度までの２年間をアフターコロナの経営改革のセカンドステージと位置づけ、事業構造改革の完遂と定着による「事業リスク耐性の強化」、コロナ禍で一時的に悪化した「財務健全性の回復」、そして将来の成長に向けたデジタル化や沿線活性化などの「事業基盤の基礎固め」に注力してまいります。

こうした経営基盤強化への取組みを織り込み、今般、中期経営計画の目標経営指標の見直しをいたします。

（２）今後の方向性

また次期経営計画以降、大阪・関西万博、大阪ＩＲ開業などに向け、グループを挙げて取り組むとともに、事業基盤の拡充に向けた戦略投資等も想定しておりますが、「グループ収益力の拡大」と「財務健全性の確保」を両立し、持続的に成長していくことを目指してまいります。

２．目標経営指標の見直し

連結指標	２０２４年度 （現在の計画）	２０２４年度 （見直し後）	次期計画以降の 目標イメージ
営業利益	６５０億円以上	８６０億円以上	１，０００億円以上
有利子負債残高 純有利子負債残高	１兆円未満 ―	― １兆７００億円未満	― １兆円未満
有利子負債／ＥＢＩＴＤＡ倍率 純有利子負債／ＥＢＩＴＤＡ倍率	８倍台 ―	― ７．０倍程度	― ６．０倍程度
自己資本比率	２３％以上	２１％以上	２５％以上

※純有利子負債＝有利子負債＋リース債務（IFRS 第 16 号による計上分を除く）－現預金
　ＥＢＩＴＤＡ＝営業利益＋減価償却費（IFRS 第 16 号による計上分を除く）＋のれん償却費

＜参考指標＞

連結指標	２０２４年度 （現在の計画）	２０２４年度 （見直し後）
ＲＯＥ	１０％程度	１０％程度
ＲＯＡ	３．５％程度	３．２％以上

※ＲＯＥ（自己資本当期純利益率）＝ 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 自己資本
　ＲＯＡ（総資産経常利益率）＝ 経常利益 ÷ 総資産

(注)本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。

以　上

事業構造の変化（アップデートの背景）

KINTETSU GROUP HOLDINGS

近鉄グループ中期経営計画２０２４
～コロナ禍から回復し、新たな事業展開と飛躍に向かうための経営改革～

2021年度　～　2022年度

コスト構造改革による損益分岐点の引き下げ

（これまでの主な取組み）

運輸	駅運営の合理化・ダイヤ変更等 抜本的なコスト構造改革
不動産	SPCを活用した保有資産の流動化 による有利子負債削減
国際物流	【 新たにグループ中核事業へ取り込み 】
流通	(百貨店) ハルカス本店の強化と地域中核店・ 郊外店のローコスト運営体制の推進 (駅ナカ) 不採算店舗の撤退と運営の合理化
ホテル・レジャー	(ホテル) 一部ホテル資産売却による二軸化経営 へ移行 (旅行) 大規模な組織再編・人員削減の実施

2023年度　～　2024年度

アフターコロナの経営改革　2ndステージへ

（近鉄グループの事業構造の変化）

- アフターコロナの
グループ各事業の
回復戦略
- 鉄道事業の運賃改定
- 国際物流事業（KWE）
を中核事業に追加

（注力する事項）

Ⅰ．事業構造改革の完遂と定着による事業リスク耐性の強化

Ⅱ．コロナ禍で一時的に悪化した財務健全性の回復

Ⅲ．将来の成長に向けたデジタル化や沿線活性化などの事業基盤の基礎固め

目標とする経営指標（アップデート計画）

KINTETSU GROUP HOLDINGS

アフターコロナのグループ各事業の回復戦略と、鉄道事業の運賃改定、KWEの子会社化による
連結財務への影響を今後の事業の方向性に反映し、中期経営計画の目標指標等をアップデート

連結指標	2018年度実績	2022年度実績	2024年度目標 現在の計画	2024年度目標 アップデート計画	次期計画以降の目標イメージ
営業利益	677億円	671億円	650億円以上	**860億円以上**	**1,000億円以上**
有利子負債	1兆559億円	1兆2,793億円	1兆円未満	**—**	**—**
純有利子負債	1兆231億円	1兆953億円	—	**1兆700億円未満**	**1兆円未満**
有利子負債/EBITDA倍率	8.8倍	10.2倍	8倍台	**—**	**—**
純有利子負債/EBITDA倍率	8.5倍	8.7倍	—	**7.0倍程度**	**6.0倍程度**
自己資本比率	19.7%	18.2%	23%以上	**21%以上**	**25%以上**

※1 有利子負債 ＝ 借入金 ＋ 社債
※2 純有利子負債＝有利子負債＋リース債務（IFRS第16号による計上分を除く）－現預金
※3 EBITDA＝営業利益＋減価償却費（IFRS第16号による計上分を除く）＋のれん償却費

KWE子会社化による現預金の増加に伴い、より実態を反映するため
リース債務を加え、現預金を差し引いた**「純有利子負債」**、
「純有利子負債/EBITDA倍率」を新たに目標指標として設定する。

【参考指標】

連結指標	2018年度実績	2022年度実績	現在の計画	アップデート計画
ROE	9.6%	21.6%	10%程度	**10%程度**
ROA	3.5%	3.5%	3.5%程度	**3.2%以上**

※1 ROE（自己資本当期純利益率） ＝ 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 自己資本
※2 ROA（総資産経常利益率） ＝ 経常利益 ÷ 総資産